

研修カリキュラム

区分	科目(細目)	研修時間内訳		具体的内容
		通信	通学	
①生活支援の理念と介護における尊厳の理解				
	(1)人間理解と尊厳 【6時間】		○	倫理と尊厳の理解 利用者本位、自立支援、利用者の代弁 守秘義務 など
	(2)生活の考え方 【5時間】		○	生命と倫理 ターミナルにおける倫理(死の考え方、尊厳死と倫理)
	(3)福祉の支援の考え方 【6時間】		○	挨拶・礼儀 依頼、助言、配慮ある断り方 利用者から金品を渡されたときの対応等 など
	(4)介護の基本的な視点と意義 【6時間】		○	尊厳を支えるケア 介護の定義 介護の定義介護職員の専門性 など
	(5)地域生活支援と保健・医療・福祉サービス及びインフォーマルな活動等とのトータルなネットワーク 【3時間】		○	すべての人を対象とする地域生活支援 地域アセスメント 資源調整と啓発 など
	(6)利用者の権利と尊厳 【3時間】		○	利用者の権利擁護・アドボカシー 虐待の防止 身体拘束の禁止
	学科試験 【1時間】		○	試験
②老人、障害者等が活用する制度及びサービスの理解				
	(1)高齢者保健福祉制度と施策 【9時間】		○	高齢者保健福祉の背景と動向 介護保険制度の概要 その他高齢者保健福祉制度
	(2)障害者福祉制度と施策 【6時間】		○	障害者福祉の背景と動向 障害者保健福祉制度の概要
	(3)その他の制度・施策 【5時間】		○	医療制度 年金制度 住宅と居住施策 など
	(4)社会保障制度改革の背景 【3時間】		○	人工の動向 負担と受給のバランス、世代間公平
	(5)介護サービスの現状、動向、利用支援等 【3時間】		○	各サービスの種類、内容、その役割 ケアマネジメントの仕組み、機関とその役割 務内容、運営基準、契約等の理解 など
	(6)自分の住む街の制度・サービス 【3時間】		○	サービス事業所 サービス提供体制 保険料とサービス水準
	学科試験 【1時間】		○	試験

区分	科目(細目)	研修時間内訳		具体的内容
		通信	通学	
③老人、障害者の疾病、障害等に関する理解				
	(1)加齢と生理 【3時間】		○	加齢の生理学 高齢者の栄養と睡眠
	(2)高齢者に多い疾病の医学的理解 【9時間】		○	三大死因の疾病 高血圧と糖尿病 循環器系疾患 など
	(3)感染症の理解と予防 【5時間】		○	感染症の種類特徴 高齢者に起こりやすい感染症 予防と留意点 など
	(4)疾病、障害と生活支援 【6時間】		○	障害の概念 知的障害、ダウン症、自閉症、学習障害等 身体障害(脳性麻痺、脊髄損傷と肢体不自由等) など
	(5)訴えと症状の理解 【6時間】		○	健康チェックとバイタルサイン 呼吸器症状と感染症等の疾病 消火器症状と食中毒等の疾病 など
	学科試験 【1時間】		○	試験
④認知症の理解				
	(1)認知症の医学的背景の理解 【6時間】		○	年齢相応の物忘れと疾患としての認知症の区別等 認知症の問題となる基本障害と行動 認知症を引き起こす原因疾病、発生誘因 など
	(2)認知症の心理・行動の理解 【6時間】		○	認知症の心理・行動モデル 症状と障害の考え方 問題とみなされがちな行動のとらえ方と対応
	(3)認知症の利用者への支援・介護の考え方 【7時間】		○	介護の原則と観察 健康管理、廃用性症候群予防 生活環境 など
	(4)認知症介護における医療・保健・福祉、関係機関、地域資源との連携、および自立支援のための地域による支え合い 【3時間】		○	
	(5)家族へのケア 【7時間】		○	家族の心理の共感的な理解 専門家としての関わり、対応の方法
	学科試験 【1時間】		○	試験
⑤介護におけるコミュニケーションと介護技術				
	(1)介護の考え方・視点 【4時間】		○	介護過程の理解 ICFの考え方と理解
	(2)介護におけるコミュニケーションと信頼関係形成 【6時間】		○	他社理解と共感、受容 傾聴的態度 自己覚知、気づき など
	(3)高齢者、障害者(児)の理解と心のケア 【6時間】		○	高齢者、障害者(児)の心理の理解 高齢者、障害者(児)の人間関係 日常生活における心的安定と活性化の視点と技術など
	(4)基本的な介護技術の習得 【60時間】		○	歩行 移動 移乗 など
	(5)介護予防の考え方と方法 【6時間】		○	生活の中の介護予防 介護予防プログラム
	(6)福祉用具の活用と住宅改修による自立支援 【7時間】		○	生活環境のとらえ方 在宅の生活と福祉用具・住宅改修の基礎 福祉用具、住宅改修の基礎
	学科試験 【1時間】		○	試験

区分	科目(細目)	研修時間内訳		具体的内容
		通信	通学	
基礎理解とその展開	⑥生活支援と家事援助技術			
	(1)生活の理解 【3時間】		○	現代生活の枠組み 生活形成プロセス 生活経営 など
	(2)「生活支援」の枠組みの中における家事援助(技術)の意義・役割 【3時間】		○	役割
	(3)高齢者、障害者(児)に対する家事援助の機能と基本原則 【6時間】		○	意欲を引き出す働きかけ なじみの関係、なじみの家具調度・食器 利用者に合わせた生活 など
	(4)食生活の支援 【11時間】		○	高齢者・障害者(児)と栄養ケアマネジメント 調理方法の基本的な考え方や調理技術 生活習慣病等に必要の食事の知識・特別食
	(5)被服生活の支援 【3時間】		○	高齢者、障害者(児)と被服の役割と機能 被服の管理、選択、清潔 取り扱い表示の種類と意味 など
	(6)住生活の支援 【3時間】		○	快適な環境の維持と安全管理 室内整備と掃除、清潔な環境 混乱や失敗を招かない環境作り など
	学科試験 【1時間】		○	試験
	⑦医療及び看護を提供する者との連携			
	(1)医療・看護との連携の基礎的理解 【3時間】		○	医療、看護との連携の必要性の理解と方法 非医行為の範囲と対応の基礎
	(2)訪問看護の基礎的理解 【3時間】		○	訪問看護制度 訪問看護の援助内容 在宅医療・在宅看護の進展
	(3)医療機器、医療用具、薬の基礎的理解 【6時間】		○	胃瘻、腸瘻、鼻腔栄養、中心静脈栄養、点滴 吸引、吸入 人工呼吸器、在宅酸素 など
	(4)褥瘡予防に関する基礎的理解 【3時間】		○	要求と発生機序 介護職が行う褥瘡予防・悪化の防止 医療職が行う褥瘡治療・処置 など
	(5)リハビリテーション医療の基礎的理解 【6時間】		○	リハビリテーションの理念、基礎 リハビリテーション医療の過程 リハビリテーションチーム職種との連携 など
(6)緊急時の対応方法 【4時間】		○	緊急時における連絡・連携と介護職員の役割	
(7)ターミナルケアへの対応 【4時間】		○	ターミナルケアの条件と介護職員の役割	
学科試験 【1時間】		○	試験	
⑧介護における社会福祉援助技術				
(1)介護におけるソーシャルワークの基礎的理解 【3時間】		○	介護におけるソーシャルワークの必要性 ソーシャルワークの目的と内容 ソーシャルワークの展開 など	
(2)介護における相談援助技術の習得 【9時間】		○	相談援助とバイステックの7原則 バイステックの7原則 高齢者、障害者(児)の家族支援 など	
(3)地域に根ざした包括的なケアの必要性 【6時間】		○	地域生活を支える総合的な住宅ケアシステム 各種社会資源：インフォーマルサービスの活用・開発 事業者間連携 など	
(4)地域生活支援の実践 【3時間】		○	利用者の生活空間を地域に広げる視点 利用者のインフォーマルなつながりの重要性 近隣への依頼・連携の方法 など	
(5)困難事例に対する援助活動の展開 【4時間】		○	サービス拒否、多問題ケース、家族とのトラブル 不適正事例	
(6)虐待防止、消費者被害、権利擁護への対応 【4時間】		○	介護サービスを通じての問題発見 問題が疑われる場合の対応 相談機関との連携 など	
学科試験		○	試験	

区分	科目(細目)	研修時間内訳		具体的内容
		通信	通学	
	【1時間】			

区分	科目(細目)	研修時間内訳		具体的内容
		通信	通学	
II 実習	⑨生活支援のためのアセスメントと計画			
	(1)生活プランの考え方 【3時間】		○	生活全体のアセスメント 生活全体のプランニング支援 生活プランとケアプラン など
	(2)ケアプランとサービス計画の内容・機能 【3時間】		○	施設ケアプランと居宅ケアプランの内容 居宅・施設サービス計画・各サービス計画 など
	(3)ケアプランとサービス計画の作成手順 【10時間】		○	アセスメントとニーズの把握 居宅ケアプランの作成 ICFに基づくアセスメントや実践への展開 など
	(4)ケアプラン・サービス計画とサービス提供の実際 【4時間】		○	ケアプラン・サービス計画に基づいたモニタリング 介護職員のアセスメントと連携 など
	(5)地域生活支援のための地域環境のアセスメント技術と留意点 【9時間】		○	利用者の希望を把握・推測するための視点・方法 利用者のインフォーマルなつながりの把握の視点・方法
	学科試験 【1時間】		○	試験
	⑩介護職員の倫理と職務			
	(1)介護職員の職業倫理 【3時間】		○	倫理と尊厳の理解 利用者本位、自立支援、利用者の代弁 守秘義務 など
	(2)生命倫理 【3時間】		○	生命と倫理 ターミナルにおける倫理(死の考え方、尊厳死と倫理)
	(3)基本的マナー 【3時間】		○	挨拶・礼儀 依頼、助言、配慮ある断り方 利用者から金品を渡されたときの対応等 など
	(4)介護職員の職場の仕組みと職務内容 【6時間】		○	介護業務の共通性と事業別の特性 ケアマネジャー、サービス提供責任者等の役割とサービス など
	(5)サービス提供時の契約と留意事項 【5時間】		○	利用者との契約 文書による確認 物品の保管 など
	(6)報告、会議、記録 【3時間】		○	打合せ、引き継ぎ、会議の持ち方、進め方と発言の仕方 記録の役割と書き方、活用法 など
	(7)介護事故等の予防と対策への組織的取り組み 【3時間】		○	セーフティマネジメント ヒヤリ・ハットの事例の活用 感染症の予防と対策 など
	(8)よいキャリアのための自己研鑽、心身の健康管理等 【3時間】		○	専門職としての自覚と質の向上 健康管理、ストレスマネジメント 介護職員の労働の権利と制度 など
	学科試験 【1時間】		○	試験
	①事前演習			
	事前実習 【10時間】			実習の目標、スケジュール、留意点等についてオリエンテーションを行い、実習の課題・問題意識を形成する。
②実習				
(1)施設・居住型実習 【80時間】			PT、OT、ST等による昨日訓練の場面を見学する。 主な医療器具や福祉器具の使用場面を見学する。 居室の環境 バリアフリーなどを見学する。 など	
(2)通所・小規模多機能型実習 (3)訪問介護実習 【40時間】			居宅介護支援事業所、地域支援包括センター、医療機関等、地域の関係機関との連携について説明を受ける。 訪問記録、訪問介護計画等を確認・閲覧する。 など	
(4)地域の社会資源実習 【6時間】			地域の社会資源を訪問し、活動の見学等を行う。	
③事後実習				
事後実習 【12時間】			実習中に記録した実習の経験内容、気づき、反省点、事故の介護観等をまとめ、目標及び計画に照らして、達成状況を確認する。	